

B002	事業シート（概要説明書）			令和6年度
事業名	オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業			
予算事業名（細々目）	オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業			
施策の大綱	誇りをもち笑顔で働けるまち	事業開始年度	令和6年度	
施策体系	ポストコロナの観光競争力の強化	部 名	産業建設部	
施策項目	社会情勢の変化を踏まえ、インバウンド等の影響を加味し、新たな観光振興施策を検討します。	課 名	産業観光課	
根拠法令等		担当名	観光担当	
事務区分	■自治事務 □法定受託事務	作成責任者	佐藤	

○事務事業の計画

実施の背景	週末など富士山周辺観光へ向かう観光客（外国人観光客）が集中する時期にJR大月駅に激しい混雑が発生しているが、改札口を出ることは少なく単なる乗り換え駅に過ぎず、市及び周辺地域への波及効果は少ない。また富士山周辺観光地は、多くの観光客で混雑している状況である。そのため、観光庁の補助メニューに公募申請し、現に混雑が生じている富士山周辺観光地に隣接する市にて富士山周辺を訪れる外国人観光客の分散を図る取り組みが先駆的モデルとして地域採択されたものである。 補助事業の対策計画を策定するにあたり、鉄道事業者や交通事業者、宿泊事業者、大月駅周辺の住民の代表者や商店街の代表の方などによる協議会を実施し、実施する事業内容の協議や意見交換を行った。			
	目的 (何をどうしたいのか)	富士山周辺観光地を訪れる外国人観光客は、首都圏からJR中央本線を利用してJR大月駅で富士急行線に乗り換えて目的地までに向かっており、本市は、単なる乗り換えの場所となっている。富士山周辺観光地は、外国人観光客で大変混雑している状況であり、富士山周辺観光地の玄関口である本市にて滞在してもらうことで富士山周辺観光地の分散が図れると合わせて大月駅周辺や市内の消費を促し、活性化を図る。また、外国人観光客の誘導と同時に多言語化やセミナーなどを開催し、受け入れ態勢を整えていく。		
事業概要	対象 (誰・何を対象に)	インバウンド（外国人観光客）	対象者数（全住民に対する割合） — 人 (— %)	
	実施方法	■直接実施		
		■業務委託 又は □指定管理（委託先又は指定管理者：）		
		□補助金〔直接・間接〕（補助先： 実施主体：）		
□貸付（貸付先：） □その他（）				
事業内容 (手段、手法など)	事業内容（箇条書き）	事業費	活動指標	
	※事業内容は、対策計画を策定し、事業実施に向けて事務局に申請中であるため、現時点での予定である ・外国人観光客の動線上にタッチパネル式のデジタルサイネージを設置 ・JR首都圏や富士急行富士山周辺駅構内にポスターの掲出 ・大月駅周辺を周遊させるような実証的な取り組み ・滞在時間別のモデルコースの選定、モニターツアーの実施 ・外国人観光客向けの新たなコンテンツの導入 ・多言語化やセミナーなど実施による受け入れ態勢の整備 ・多言語によるWEBサイトの構築、情報発信 など			
関連事業 (同一目的事業等)				

○事務事業の取組

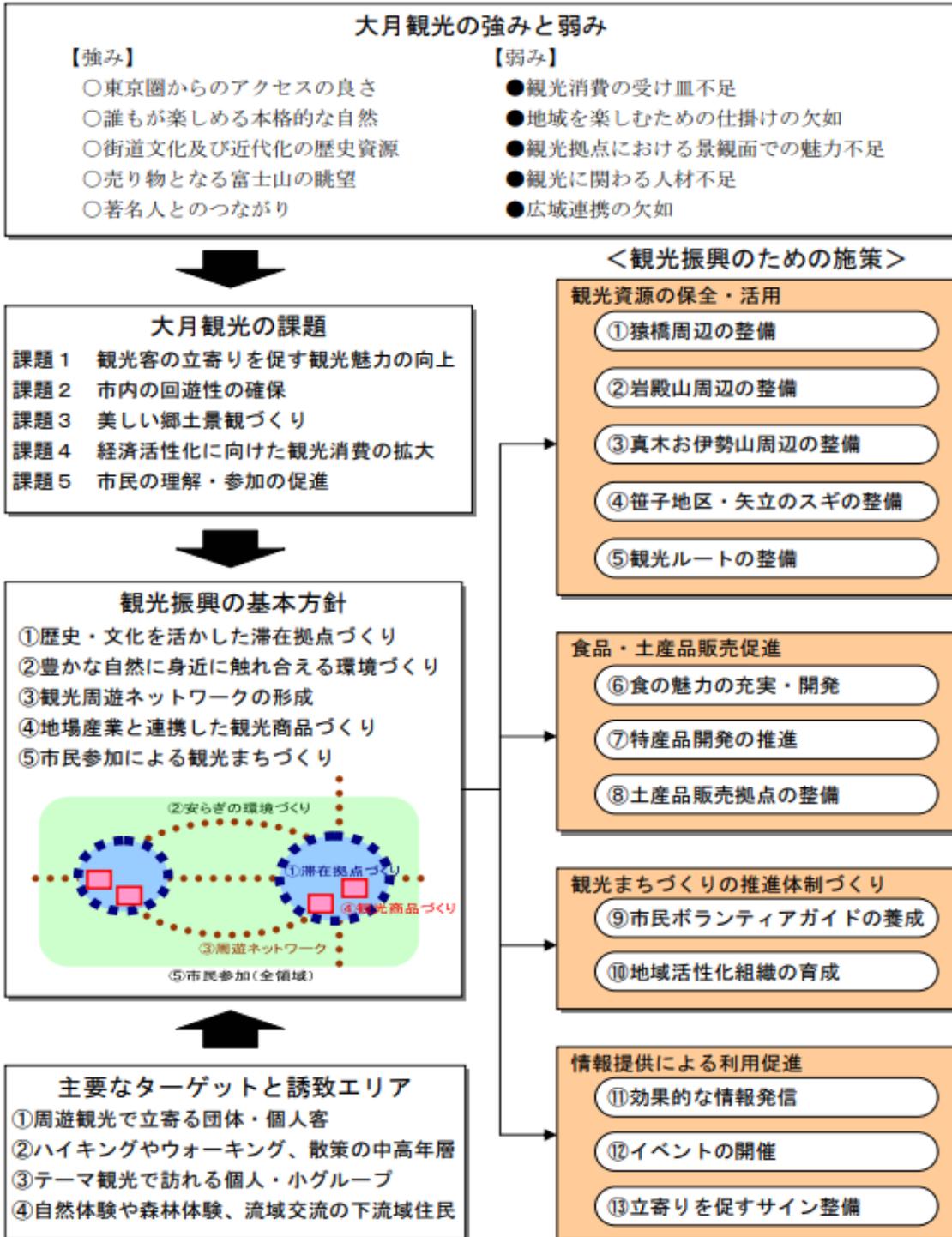
コスト	事業費	令和6年度（予算）		令和5年度（決算）		令和4年度（決算）		令和3年度（決算）	
		人	千円	人	千円	人	千円	人	千円
事業費	事業費合計	1	16,800	—	—	—	—	—	—
	事業費内訳 (令和5年度分)	支出内容		経費		支出内容		経費	
	人件費	正職員	1	6,862	—	—	—	—	—
臨時職員等			0	—	—	—	—	—	—
人件費合計		1	6,862	—	—	—	—	—	—
総事業費			23,662	—	—	—	—	—	—

財源 内訳	国県支出金	11,200千円	－千円	－千円	－千円	
	国県支出金の内容		オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業補助金			
	地方債	0千円	－千円	－千円	－千円	
	その他特財	0千円	－千円	－千円	－千円	
	その他特財の内容					
	一般財源	12,462千円	－千円	－千円	－千円	
財源合計		23,662千円	－千円	－千円	－千円	
事業 実績	【活動指標名】（実績値/目標値）		単位	令和5年度	令和4年度	令和3年度
	対策計画にて採択された事業の実施		事業	－	－	－
	単位当たりコスト		/			

○事務事業の評価

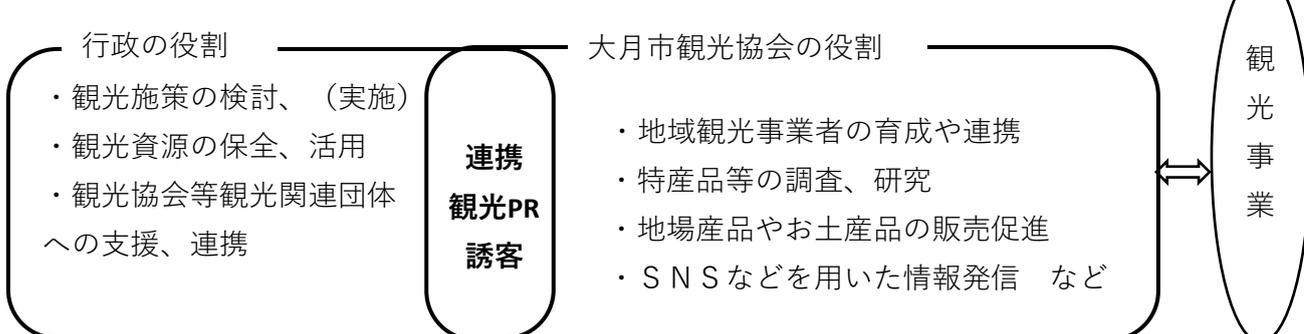
事業 成果	成果目標 （指標設定理由等）	富士山周辺観光地を訪れる外国人観光客に対して、乗り換え駅である大月駅の改札から外に出してもらうための動機付けや行動変容となるような事業を実施し、それぞれの事業において、アンケート調査などから効果測定し、検証した事項を次年度以降の計画につなげていく。 外国人観光客を含めた大月市全体への観光入込客数 目標値：320,000人（R9年度）				
	【成果指標名】（実績値/目標値）		単位	令和5年度	令和4年度	令和3年度
	外国人観光客を含めた大月市全体への観光入込客数		人	約270,000	約183,000	約160,000
	成果 （目標達成状況）					
自己評価 課題 今後の方針 （事業の有効性、効率性、必要性の観点）	対策計画の採択を受けたのち、事業を実施していくことになるが、初めての取り組みとなるため、実証的な事業も含まれ、目的を持った外国人観光客をどのようにして大月駅改札口から外に出すかが課題であり、現に外国人観光客で賑わいを見せていない本市において、地域事業者の受け入れ態勢の整備も同時に進めていく必要がある。また、事業を実施する中で、引き続き協議会にて意見聴取することや協同で事業を進めていきたいと考えている。					
比較参考値 （類似事業例など）						
特記事項	オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業先駆モデル地域型					

■大月市観光振興計画の体系



平成21年観光振興計画（概要版）抜粋

■大月市の体制



第8次総合計画抜粋

政策③ 誇りをもち笑顔で働けるまち



3-1 観光の振興

現況と課題

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行され、国内外の観光需要が急速に回復したことを受け、全国各地で観光客の増加が見込まれるとともに、国の観光戦略の影響もあり、インバウンド（訪日外国人観光）需要の高まりが見込まれています。

本市においても、富士山周辺へ向かう観光客の大月駅の利用増加、駅周辺の大型宿泊施設の開業に加え、これに自然観光資源、歴史資源、東京近郊に位置する立地条件、交通アクセスの利便性が高いことなどの要素が加わることで、さらなる誘客が期待されています。

しかし、本市は通過地点や経由地の1つとして、短期滞在や通過点とする観光客が多いことから、こうした観光客を長時間滞在させ、観光消費や交流人口の増加につなげていくことが重要となります。

今後は、国内外への情報発信や、経由地としての特性を生かした新たな観光戦略の検討、既存観光資源の活用及び新たな観光資源の発掘に加え、観光需要の高まりに対応するための情報発信、人材育成等について、民間事業者や関係団体と連携・協力しながら、それぞれが当事者意識を持つことによるボトムアップ型の地域ブランディングを進めていく必要があります。

主要施策

◆ ポストコロナの観光競争力の強化

主要施策の概要

- ・ 観光客数増加のため、名勝猿橋や岩殿山等の地域資源を保全しながら、計画的な整備に努めます。
- ・ 社会情勢の変化を踏まえ、インバウンド等の影響を加味し、新たな観光振興施策を検討します。
- ・ 登山者等の安全確保を図るため、登山道やハイキングコースの整備・保全・修繕に努めます。
- ・ 来訪者のアクセス向上のため、サインや誘導看板、案内板等の計画的な整備・修繕を行います。
- ・ 観光スポット等への駐輪場やトイレの整備について、関係機関や地域組織等との連携を図りながら推進します。
- ・ 観光協会との連携を中心に、観光のまちづくりの推進や地域間交流の充実に努めます。
- ・ 特色ある地域特産品や土産物の開発、販路の確保など関係団体や事業者との連携と支援に努めます。
- ・ 本市の歴史的・文化的背景やストーリー性を考慮した文化資源の魅力を発信し観光に繋がるような仕組みづくりを検討します。

対象エリアの概要

- 年間観光客数:約27万人（令和5年度：大月市全体の来訪観光客数）
（うち外国人観光客数）:未集計
- 主な観光資源：名勝猿橋・矢立の杉・笹一酒造・追分の人形芝居・秀麗富嶽十二景（市内山々）

事業費/補助申請額

事業数	10
事業合計額	15,342千円
補助申請額	10,228千円

オーバーツーリズムの現状・懸念・取組実績

- オーバーツーリズムの現状
 - ・ 国内有数の主要観光地である富士山へ向かう外国人観光客が集中する時期に大月駅構内に混雑が発生する
 - ・ 一方、大月駅外においてオーバーツーリズムの影響を受けることは少ない
- オーバーツーリズムの影響による懸念
 - ・ 東京方面から大月駅までJR中央本線を利用し、大月駅で富士急行線に乗り換えて富士山方面を目指す観光客が、大月駅周辺で時間を費やしたい際の受け皿が整備されていない
- 取組実績
 - ・ 大月駅前の観光案内図設置
 - ・ 猿橋地区に大月市観光協会の拠点を整備
 - ・ 高尾山リニアルート上に位置する自治体の連携による外国人観光客の誘致

補助事業内容

- 解決すべき/想定する課題①
受入環境の整備・増強／観光客の分散・平準化
- 実施する事業①
 - ① デジタルサイネージの設置
 - ② 観光客に向けた地域内外での広報PR
 - ③ 地域の交通事業者と連携した実証実験



- 期待する効果①
 - ① 外国人観光客の利便性向上
 - ② 大月市の認知向上
 - ③ 主要観光地からの観光客の分散



- 解決すべき/想定する課題②
地域住民と協業した観光振興

- 実施する事業②
 - ① 地域事業者向けセミナー
 - ② 地域観光ガイドの育成
 - ③ 観光コンテンツの多言語対応支援

- 期待する効果②
 - ① 観光に対する地域住民の理解向上
 - ② 地域事業者の観光への取組の増加
 - ③ 外国人観光客の滞在価値向上



